

# 第1章 耐震化の現状と課題

## 1. 地震による被害想定

---

### (1) 摂津市の地勢

摂津市は、大阪府北部の三島平野に位置し、西は大阪市、吹田市、北は茨木市、東は高槻市、南は淀川をはさんで守口市や寝屋川市と隣接しています。

地形は東西6km、南北5kmのL字型で、面積は14.87km<sup>2</sup>です。市域の北西部が千里丘陵に接してやや高く、南東部は淀川に接し低地で、海拔は3m～14mとなっています。

河川は、南東部を流れる淀川と中央部を東西に流れる安威川があり、安威川には、千里丘陵からの大正川や山田川等が合流しています。

地質は、淀川等河川の氾濫による土砂堆積でできた沖積層となっています。沖積層は比較的新しい地層であり、一般的に軟弱であることが多いとされています。特に安威川以南や河川周辺の地区では、比較的やわらかい地盤で構成され、地震により表層地盤はゆれやすい傾向にあります。

## 摂津市の市街化の変遷

### 【三島町成立後の市域の発展】

- ・摂津市は昭和 31（1956）年に味舌町・味生町・鳥飼村が合併して三島町となり、さらに旧三宅村の一部も編入され、ほぼ現在の市域が形成されました。
- ・市内には昭和初期から既に、阪急京都線と JR 東海道本線（京都線）が運行しており、正雀駅と千里丘駅付近には、当時から密集した市街地が形成されつつありました。

### 【衛星都市としての発展】

- ・昭和 30 年代の高度経済成長期には、大阪都市圏の発展や幹線道路の整備に伴い、それまで田畑であったところに工場立地が進み、鉄道駅周辺には商店街が形成され、住宅開発が進み、木造の長屋建住宅や戸建住宅等が多く建ったことで人口が急激に増加しました。さらに、昭和 41（1966）年の市制施行を経て、大阪市に隣接する衛星都市として、また大阪北部における住宅・産業都市として発展してきました。
- ・特に、安威川以南の鳥飼地区では、土地区画整理事業により都市基盤が整備され、住工共存の多様な土地利用が展開されてきました。
- ・平成 5（1993）年には、JR 千里丘駅東口の市街地再開発ビルと駅前交通広場が整備され、市北部の玄関口として発展してきました。
- ・平成 9（1997）年には、大阪モノレールが延伸開通し、摂津駅と南摂津駅の 2 駅が駅前交通広場とともに整備され、大阪北部の衛星都市間を横断的に連絡する公共交通として利用されています。

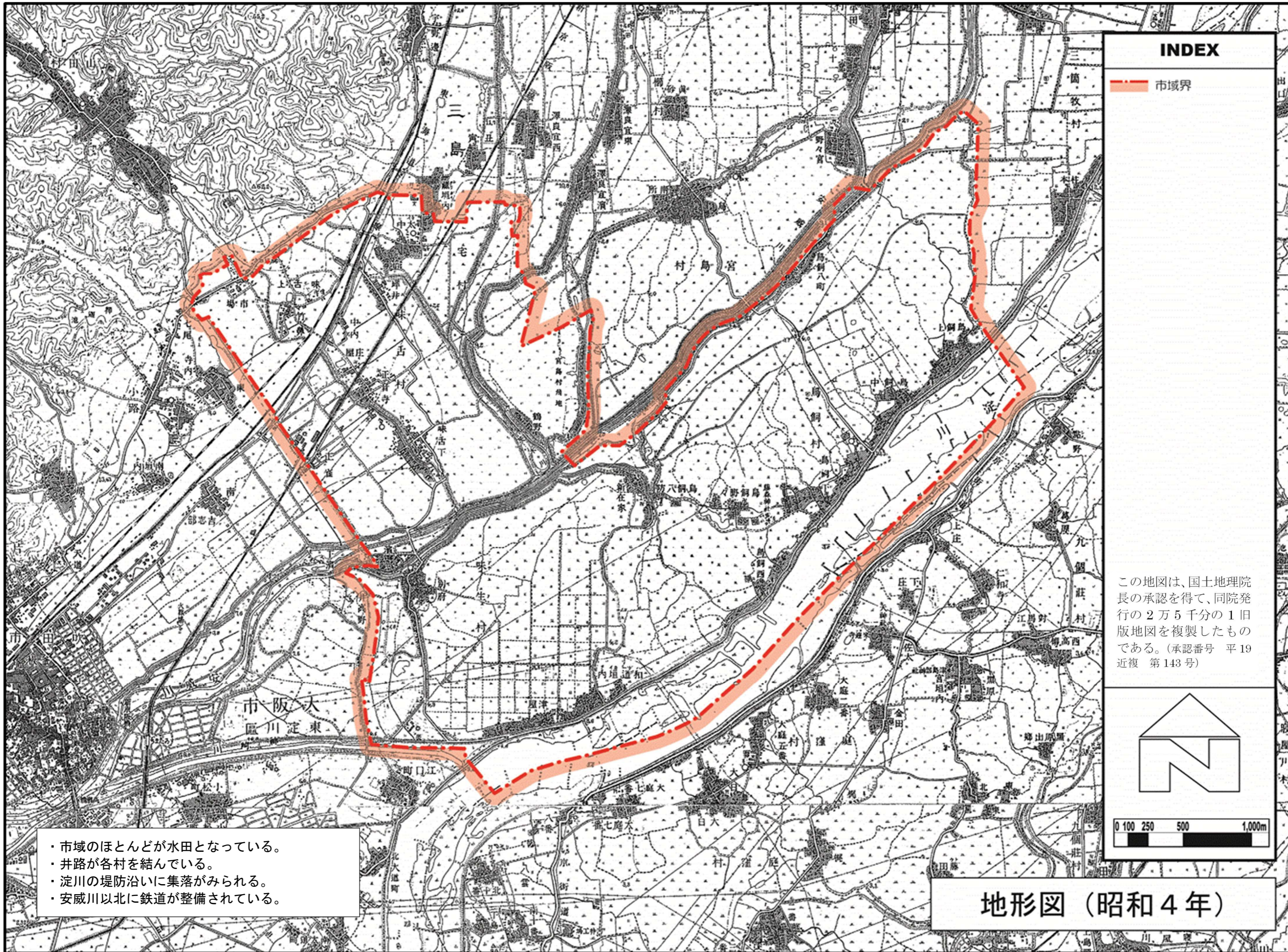
### 【JR 千里丘駅西地区の市街地再開発】

- ・JR 千里丘駅の西地区では、交通結節機能の強化や新たな賑わいの創出に向けて第 1 種市街地再開発事業が進められています。

### 【吹田操車場跡地を活用した北大阪健康医療都市（健都）のまちづくり】

- ・摂津市の北西部に位置する千里丘新町では、北大阪健康医療都市（健都）として健康・医療をコンセプトとした土地利用が始まっており、吹田操車場跡地や正雀下水処理場、クリーンセンターの跡地において、隣接地に移転した国立循環器病研究センターや健都イノベーションパーク等と連携した医療系産業の集積及び市民健康増進に寄与する健康・予防医療に関連するサービスの導入、JR 岸辺駅からの近接性を活かした集合住宅や居住機能を補完する生活利便施設の導入等による、安全・安心でゆとりのある良好な市街地環境及び居住環境の形成が計画的に進められています。

出典：摂津市都市計画マスタープラン（摂津市立地適正化計画）



**INDEX**

市域界

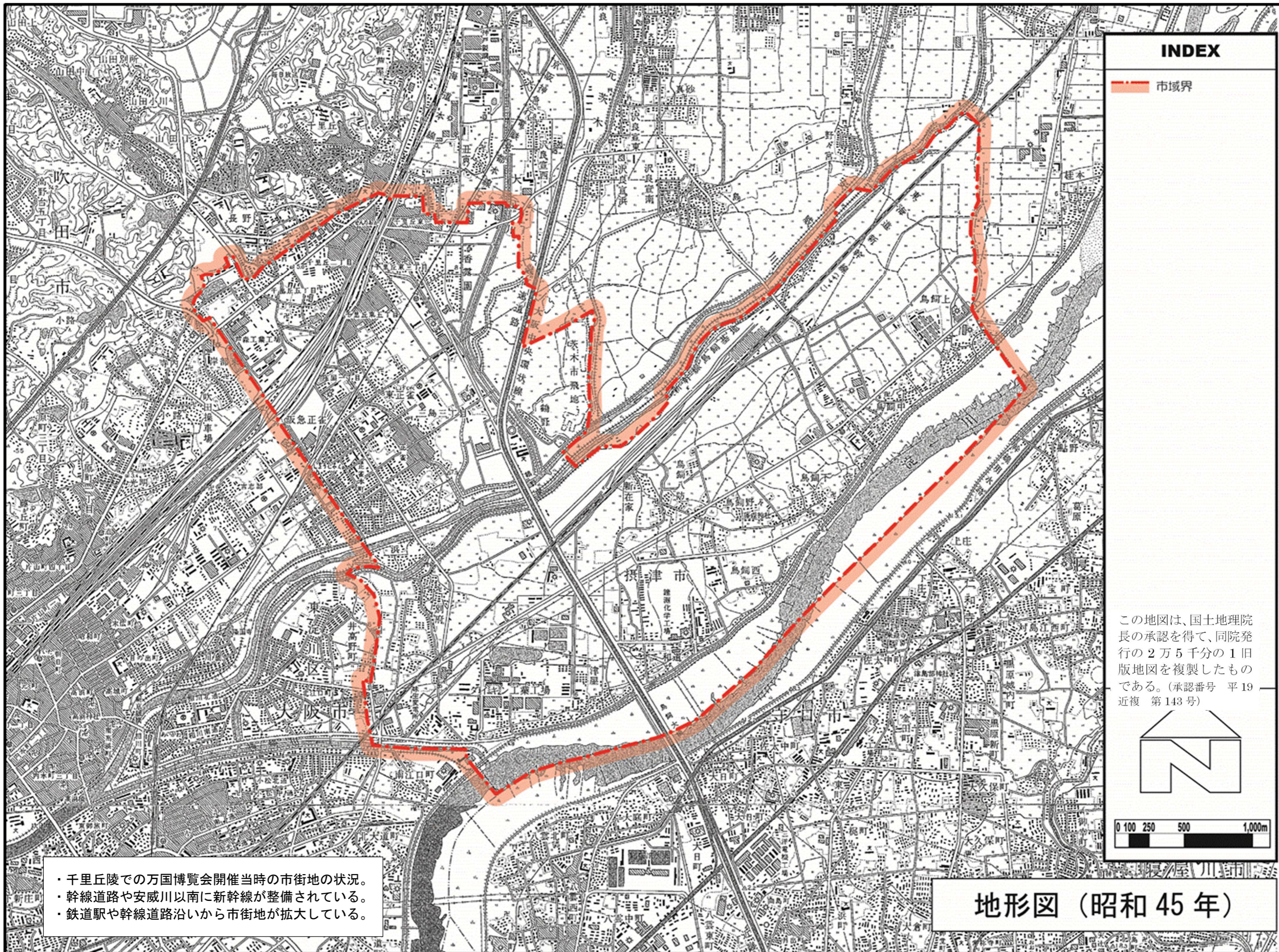
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1旧版地図を複製したものである。(承認番号 平19近複 第143号)



0 100 250 500 1,000m

**地形図 (昭和4年)**

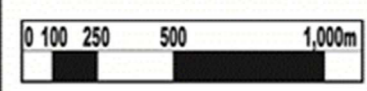
- ・市域のほとんどが水田となっている。
- ・井路が各村を結んでいる。
- ・淀川の堤防沿いに集落がみられる。
- ・安威川以北に鉄道が整備されている。



**INDEX**

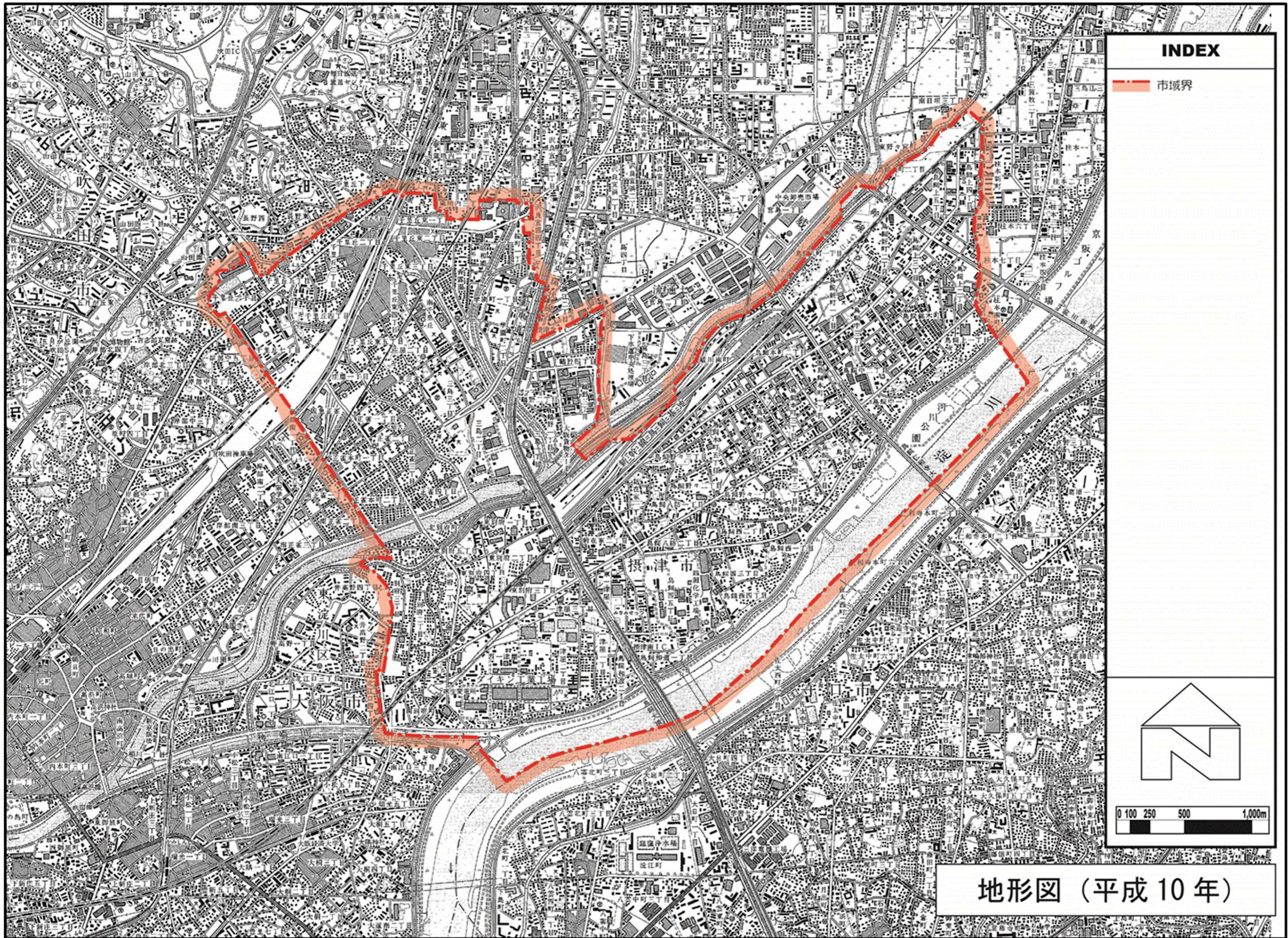
市域界

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1旧版地図を複製したものである。(承認番号 平19近復 第143号)



- ・千里丘陵での万国博覧会開催当時の市街地の状況。
- ・幹線道路や安威川以南に新幹線が整備されている。
- ・鉄道駅や幹線道路沿いから市街地が拡大している。

**地形図（昭和45年）**



**INDEX**

市域界

0 100 250 500 1,000m

地形図（平成 10 年）



## (2) 摂津市における地震の被害想定

想定される地震被害の状況として、上位計画である摂津市地域防災計画では、大阪府が公表した地震被害想定結果及び南海トラフ巨大地震被害想定結果を参考に、市の地震対策の目標とする被害量を設定しています。

### 1) 想定地震

南海トラフ巨大地震と大阪府への影響が考えられる4つの内陸断層（上町断層帯、生駒断層帯、有馬高槻断層帯、中央構造線断層帯）について、6つのケース（上町断層帯は断層破壊モデルが2ケース）の地震が想定されています。このうち、摂津市域の震度が最も強くなるケースは「上町断層帯地震A」で、市全域が震度6弱～6強と予測されています。また、平成25（2013）年度に大阪府が公表した大規模地震被害想定結果を踏まえ、南海トラフ巨大地震も想定されています。

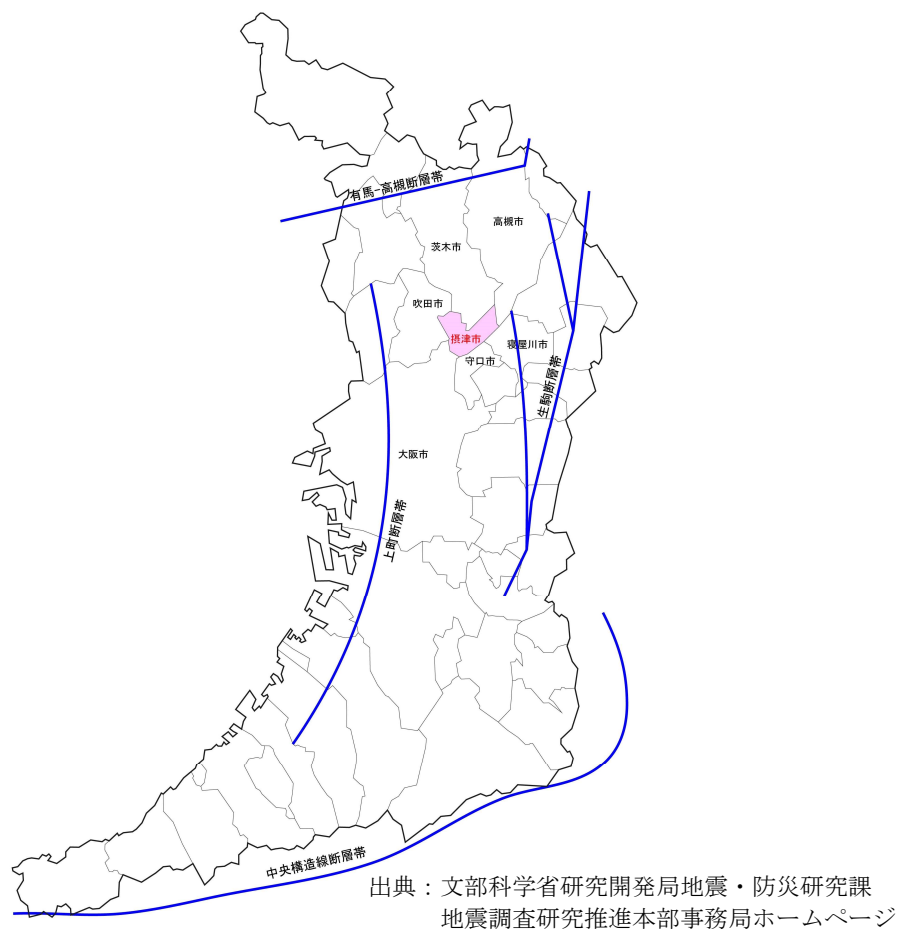
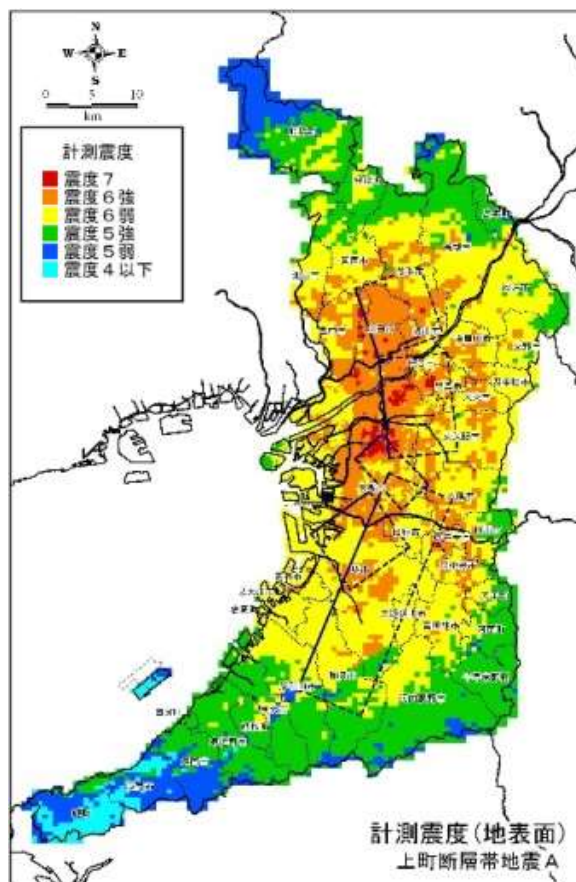
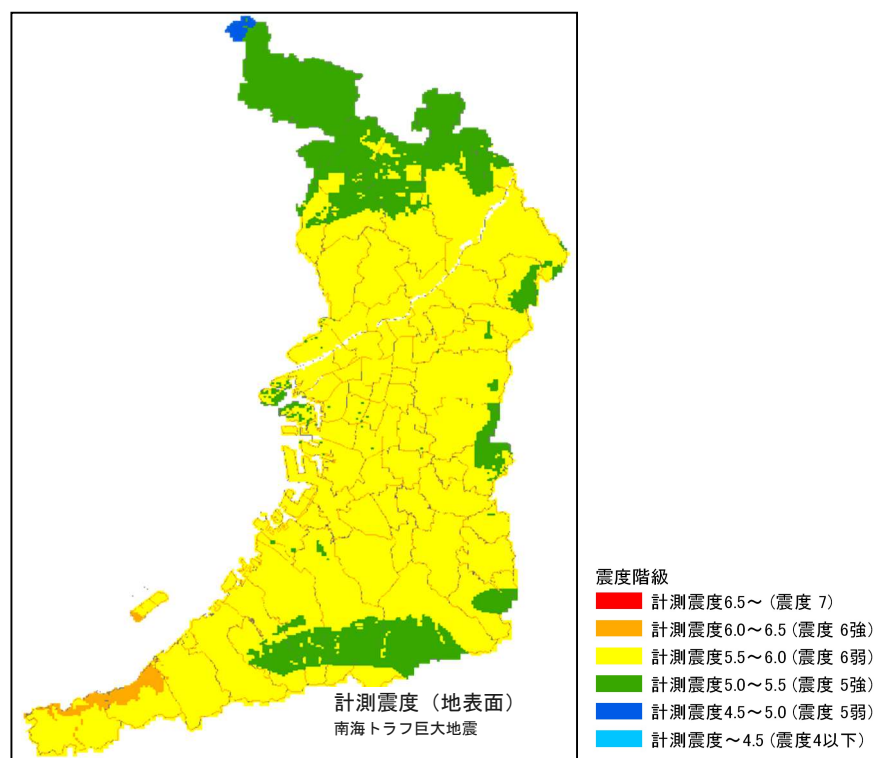


図 1-1 大阪府への影響が考えられる断層帯



出典：摂津市地域防災計画

図 1-2 大阪府内の地震動予測「上町断層帯地震 A」(H18 年度公表)



出典：摂津市地域防災計画

図 1-3 大阪府内の地震動予測 (H25 年度公表)